



しじき



CONTENTS

- 1 平成28年賀詞交歓会
- 4 新社長登場・斎藤ドラム罐工業(株)／内藤誠氏
- 5 ドラム缶工業会の「安全」への取り組み
- 6 技術委員会 中国視察レポート
- 7 工業会ホームページのリニューアル
- 7 鋼製ペール5つの特長と利便性
- 8 平成27年 暦年出荷実績



ドラム缶工業会 賀詞交歓会



ドラム缶工業会 小野 定男 理事長



平成28年 賀詞交歓会



理事長挨拶

ドラム缶工業会の賀詞交歓会が1月8日(金)午後5時30分から、鉄鋼会館(東京都中央区)で開催されました。冒頭、挨拶に立った小野定男理事長〔JFEコンテナ(株)社長〕は、本年の課題や活動について下記のように述べました。



皆様、新年あけましておめでとうございます。

本日はご多忙にもかかわらず、経済産業省 山下鉄鋼課長様をはじめ、多くの皆様のご出席を賜り、誠にありがとうございます。新年にあたり、ご挨拶申し上げます。

昨年を振り返りますと、年初には、景気は回復に向かうとの期待もありましたが、新興国景気の停滞や中国経済の減速の影響もあり、第一四半期、マイナス成長となりました。また足元、11月の鉱工業生産指数が事前の予想を下回るなど、総じて力強さに欠ける状況が続いています。また、新缶ドラム、ペール缶の全国出荷量も概ね前年を下回っています。

これまで中国の旺盛な需要増加を背景に拡大してきたアジアの石油・化学産業は、中国経済の減速に伴い、事業構造の改革を迫られています。今年は、中国発の景気調整圧力がさらに重石となってくるリスクを考慮するとともに、国内の石油・化学業界の構造改革の動きも注視してまいりたいと思います。

その一方で、足元の企業業績が好調なことに加え、法人税の減税や設備投資への優遇税制などの政策措置により、企業活動が活性化し、景気全体の押し上げに寄与することが期待されます。

さらに、石油・化学業界は、ヘルスケアや電子材料、インフラ・エネルギー、食や農業などでの新分野への進出および、製品の高機能化や革新的素材の開発によって、事業の拡大と成長を目指しています。

こうした高付加価値、高機能の製品を安心して収納、流通させる最適容器としてドラム缶、ペール缶に求められる役割は、今後一層高まるものと思われ、私どもはそうしたニーズにしっかりと応え、併せて金属ドラム・ペールの用途拡大に努めていかなければなりません。



さて当工業会の昨年の活動を振り返りますと、「環境・安全」と「技術力の向上」、「情報発信」をキーワードに、積極的な活動を進めてまいりました。具体的にはVOC削減を目的とした標準色の見直しを6月に実施し、11月にはホームページを全面的にリニューアルしました。

また、国際鋼製ドラム製造業者連合会 (ICDM) に新たに技術委員会を設置し、世界各国の技術課題に関する議論と認識を深めたほか、中国へ技術ミッションを派遣するなど、国際活動も活発に行いました。また、ペール缶の需要拡大を狙ったパンフレット、「鋼製ペール5つの特長と利便性」の改訂も実施しました。

今年は、年末に技術テーマを中心としたアジア・オセアニア鋼製ドラム製造業者協会 (AOSD) 国際会議がインド・ムンバイで開催されます。

回を重ねるごとに参加者、発表内容ともに充実してきており、今回も活発な議論が期待されます。

各国の共通課題である環境や品質向上、および効率化や自動化技術について、当工業会がアジア各国をリードする気持ちで臨みたいと思います。

また、国際基準との整合性を図りながら、一昨年以来取り組んできましたドラム缶関連のJISの改正は、本年中に改正作業が完了し、発行される見通しです。一方、ISOにつきましても、今後引き続き、改正に向けての提案活動に取り組んでまいります。

ドラム缶、ペール缶は、リユース・リサイクル率の高い「環境共生容器」です。優れた産業容器としての特長を広く社会に認知、評価していただき、ドラム缶、ペール缶のさらなる需要の拡大につなげるべく、今年にはリニューアルしたホームページを活用するなどして、様々な情報発信

を展開してまいりたいと考えています。

安全について申し上げます。当工業会では、従来から各職場の災害事例を会員各社で共有し、労働災害の発生防止に努めてまいりました。

昨年、新たな取り組みとして、報告事例を傾向分析し、国内のあらゆる製造業との比較などを行い、年報にまとめました。会員各社におかれましては、この情報を各社の実情に合わせ分析・活用し、労働災害の根絶に努めていただきたいと思います。

最後にコンプライアンスについては、工業会活動の健全な発展のためには、会員各社の強いコンプライアンス意識に基づく責任ある行動が不可欠です。

今年も引き続き、皆様のご理解と、ご協力をお願いいたします。

引き続き来賓を代表して、経済産業省製造産業局鉄鋼課の山下隆也課長より、祝辞をいただきました。



新年あけましておめでとうございます。

平成27年度の我が国経済は、年度前半には輸出が弱含み、個人消費と民間設備投資の回復に遅れが見られましたが、今後は各種政策の効果により、実質GDP成長率は1.2%程度と、緩やかな回復に向かうことが見込まれています。

また、平成28年度の見通しは、雇用・所得環境が引き続き改善し、経済の好循環がさらに進展するとともに、堅調な民需に支えられた景気回復が見込まれ、実質成長率は1.7%程度と見込んでいます。





ドラム缶工業会の皆様には、可能な範囲で、設備、技術、人材への投資に取り組んでいただければ幸いです。

昨年11月の官民対話で産業界の方々から、「2018年度に設備投資が今よりも10兆円増える」との見通しが示されたことは素晴らしいことだと思います。その実現に向けて着実に取り組みを進めていただきたいと思います。

政府としては、こうした産業界の積極的な姿勢を高く評価し、来年度、法人実効税率を20%台に引き下げることであります。これにより、3年で7%超の引下げを実現することになります。

また、操業の安全確保、防災への取り組みは経営に直結する重要課題です。業界一丸となった取り組みを引き続きお願いします。

最後に、本年がドラム缶工業会にとって飛躍の年となることを心から祈念して、私の挨拶とさせていただきます。

来賓祝辞を受けて、野上正道副理事長〔(株) ジャパンパール社長〕が乾杯の音頭をとりました。「昨年は、パール缶業界の販売数量は迫力を欠く展開の年でした。統計によりますと、全体の前年同期比に比べ-1.3%になり、中身を見ますと、昨年1月～6月は前年同期比-2.7%で、7月～11月は+0.4%と全体に回復基調の状況にあります。

昨年のパール委員会の活動は、工業会全体の安全に対する努力が実を結び、安全かつ、無災害を達成することができました。

また、パール委員会のテーマとしまして、オートメーション技術の調査を三菱電機名古屋製作所、アサヒビール名古屋工場へ見学し、私どもとは違った異業種の目線、ものの考えに感銘しました。このことをパール缶技術へ生かしていきたいです。

ホームページのリニューアルで、パール缶の製造工程をDVDで作成し、パール用語基礎知識の内容も全面的に刷新いたしました。さらには、各工場間で若手技術者を中心に交流し、技術力向上に努めています。

平成28年は、2月末から3月初めにかけて、オーストラリアのパール缶メーカーへ工場視察に行き、11月にはAOSD国際会議へ若手を中心にミッション参加を予定しています」と述べました。乾杯の発声の後、歓談に移りました。

中締めでは小原知実副理事長〔日鉄住金ドラム(株)社長〕が挨拶しました。「山下鉄鋼課長様と小野理事長のお話をお聞きしまして、我々、ドラム缶工業会を取り巻く環境は、平坦ではないなどの思いを強くいたしました。ドラム缶工業会の皆様の高い技術力と、ガッツを持ってすれば、



経済産業省製造産業局鉄鋼課 山下 隆也 課長



ドラム缶工業会 野上 正道 副理事長



ドラム缶工業会 小原 知実 副理事長

この難局を乗り越えられると確信しております。皆様で元気にスタートしていきたいと思っております」と述べました。

平成28年の賀詞交歓会には関係省庁や関係諸団体、会員各社、ドラム缶工業会関係者ら170名が参加、盛況のうちに終了しました。



ドラム缶工業会
専務理事 事務局長
本田 信裕

新社長 登場

斎藤ドラム罐工業株式会社

代表取締役社長 内藤 誠



昨年12月、斎藤ドラム罐工業の新社長に就任した内藤 誠氏。その横顔を紹介する。

内藤氏は、1967(昭和42)年10月、山梨に生まれた。4人きょうだいの末っ子で長男。趣味はリフォーム、自動車などの機械いじりと、もの作り。子供の頃から、ものを作ることが、何よりも好きだった内藤氏。大人になった今、機械のに囲まれて仕事ができることは、とても楽しいという。

「まずは、社員とのコミュニケーションを深め、意識を変えていきたい」と話す。

>>> 若い社員と意識革命

斎藤ドラム罐工業へ入社し、8年目を迎える時に、内藤氏は後継者として社長を任せられた。

まず、全社員平均年齢37歳、さらに現場は平均年齢20歳代という若い社員たちの意識を、一緒になって少しずつ変えていくために、皆で真面目に考えていくことから意識改革に取り組んでいった。具体的には、「お客様へ、自信を持って製品を送り出していきたい」という気持ちを社員全員で確認し、実行、継続させる。そして、見直しが必要であれば確実に実行できる効率のよい方法の模索と停滞させない仕組み作りを、製造と営業が一体となって取り組んでいる。

製品は3本柱で構成されており、鋼製200Lドラム、鋼製中小型ドラム(3L~200L未満)、ステンレスドラム(3L~200L)、その他特殊容器、工業製品の部品などを社員40名で製造している。



>>> 現場での人材育成

斎藤ドラム罐工業は、各種外径、板厚の違う容器を1ラインにて溶接し脱脂、リン酸亜鉛処理を行うことができる技術力がある。

また、外径の違う容器の巻き締めにおける気密保持や、塗装、仕上げの効率化など、安定した生産技術も持っている。新社長が得意な生産管理では、月次データベースで得られた情報から課題を選出し、即時対応できる取り組みを行っている。

今後の課題としては、組織力の強化を行い、なお一層、人材育成に力を入れていくということ。

「大手メーカーではできない細かな要望にも応えるメーカーを目指し、様々なアイデアで、より付加価値の高い製品をお客様へお届けできるよう努力していきたい」と語った。

>>> 歴史を踏まえて

斎藤ドラム罐工業は、1932年1月に創業してから今年で84年になる。1938年に株式会社へ改組してからは、79期を迎える。

過去には、戦争や高度経済成長などを背景に国内拠点5カ所でドラム缶製造、更生ドラム製造を行っていた時期もあったが、現在では和歌山工場で新缶製造のみを行っている。

「今後はこれまでの歴史を活かし、お付き合いをいただいているお客様のさらなる需要の掘り起こしと、新規営業を強化していきたい」と述べ、最後に「製造と営業チームが一体となり、直接、お客様のニーズをお聞きし、他社ではできないより良い容器を提供していく」と抱負を語った。

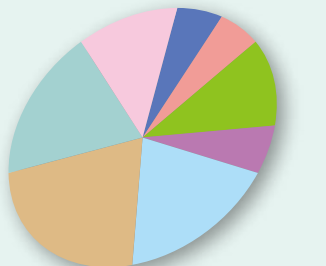
ドラム缶工業会の「安全」への取り組み



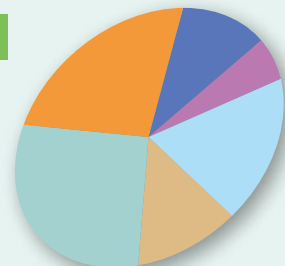
ドラム缶工業会では2006年から「会員各社の災害事例」を共有化することにより、類似災害の撲滅活動を継続して行っており、労働災害の発生減少の成果があがっております。具体的には、労働災害が発生した場合に技術委員会およびペール委員会で、該当社が労働災害の発生状況・理由、防止対策などについて説明し、各委員が意見を出し合い、様々な角度からさらに分析を行っております。

このような活動を通して、「ゼロ労働災害の達成」を会員各社共通の最優先課題として取り組んでおります。この活動をさらに充実するために、昨年から技術委員会で労働災害の年報を作成しております。この年報では、過去1年間（平成27年）の災害の統計処理を行い、また、日本の全製造業の災害統計と比較して、工業会の災害発生傾向の分析を行っております。具体的には、①事故の型別 ②起因物別 ③作業の種類別 ④不安全な行動別 ⑤不安全な状態別 ⑥経験年数別 ⑦年齢別 ⑧傷害部位の 카테고리別に労働災害を分類し、比較・分析を行っており、会員企業の災害の特徴を把握、重点的な対策を実施し災害防止に活用しています。（下記の円グラフで工業会の平成27年の労働災害分析例を示します）

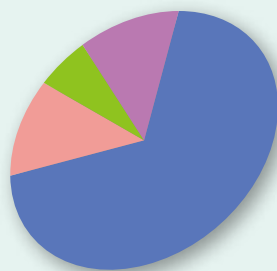
事故の型別



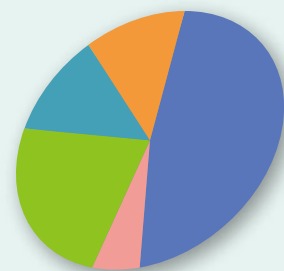
起因物別



作業の種類別



経験年数別



中国視察レポート

2006年の中国視察団に続き、2015年10月に9年振りの中国視察団の派遣を実施しました。今回の視察では、ドラム缶メーカー3社、ドラム缶設備メーカー3社を訪問しましたが、年間1億本を超える中国ドラム缶製造現場の最先端事情を垣間見ることができ、有意義な海外視察となりました。その概要につきましてレポートします。

1. 視察スケジュール

- 10月18日 成田→大連
- 10月19日 营口北方制桶设备科技有限公司視察
- 10月20日 天津大田包装容器有限公司視察
- 10月21日 上海冀晟自動化成套設備有限公司視察
上海賢日自动化设备有限公司視察
- 10月22日 JFE金属容器(上海)視察
- 10月23日 無錫四方制桶有限公司視察
- 10月24日 上海→成田着

2. 視察メンバー

氏名	会社
縄田 康隆(団長)	日鉄住金ドラム(株)
木原 幹人(副団長)	JFEコンテナ(株)
寒川 肇	斎藤ドラム罐工業(株)
中山 茂	JFEコンテナ(株)
栗山 庄太郎	JFEコンテナ(株)
米澤 雅弘	JFEコンテナ(株)
玉田 基	ダイカン(株)
宮田 博永	(株)東京ドラム罐製作所
三品 健司	東邦シートフレーム(株)
九鬼 均	日鉄住金ドラム(株)
岩本 敏治	日鉄住金ドラム(株)
日谷 淳	日鉄住金ドラム(株)
矢田部 裕司	(株)山本工作所

3. 中国のドラム缶業界概要

中国のドラム缶業界の特徴は、次の3つのキーワードにまとめられると考えます。

(1) 量から質への転換(高品質化)

- ・中国では、経済成長のスピード鈍化を受け、これまでの労働力と資源、資本を大量に投入する経済成長から、新技術の開発や生産性の向上などによる集約型経済成長への転換が始まっています。
- ・ドラム缶業界も、量から質への転換の幕開け期に当たり、ドラム缶製造に関しての高速化、自動化、高品質化に取り組んでおり、今後、これらの取り組みがさらに加速すると思われます。

(2) 自動化設備

- ・中国でも、労務費の上昇を受け、ドラム缶工場の自動化設備の開発・導入が進展しています。
- ・現状では、溶接機、圧延機、シーマーなどの高度な自動化設備は、外国製設備のデッドコピー機ですが、機械装置としての仕上り精度はそれなりに向上してきていると感じました。
- ・装置設計に関しては、コピー機よりスタートしていますが、納入先のドラム缶メーカーからの改善要望を受け、将来的には機能・性能に優れた装置の開発に繋がる可能性があると考えられます。

(3) 環境対策

中国政府からの環境基準遵守の指導が年々厳しくなっており、最近では、ドラム缶の新工場設立時にリン酸処理が認められない例も出ています。また、江蘇省では化学メーカーの新規進出は認められていないとの情報もありました。



天津大田包装容器有限公司での集合写真



JFE金属容器(上海)での集合写真

工業会ホームページのリニューアル

この度、ドラム缶工業会ではホームページの全面的なリニューアルを行い、昨年11月に運用を開始しました。

リニューアル版では、見易さと検索の向上を心がけました。また「ドラム缶工業会の概要」、「ドラム缶、ペール缶の特長」の説明を全面的に見直すとともに、生産工程を映したDVDや作業工程のフロー図を掲載するなど、皆様によりよく理解をしていただけるように工夫しております。さらに、「中小缶の特長」、「環境対策」、「統計資料」、「広報誌『ひびき』のバックナンバー」のコンテンツと、「よくあるご質問」や「お問合せ」のコーナーを新設し、よりきめ細かな対応ができるようにしております。

ホームページのURLは次の通りです。

<http://www.jsda.gr.jp/>



鋼製ペール5つの特長と利便性

改訂第2版の発行

ドラム缶工業会・ペール委員会では、この度、「鋼製ペール5つの特長と利便性」の全面的な見直しを行い、改訂第2版を発行しました。需要家の皆様に鋼製ペールをよりよく知っていただくために、その5つの特長（1.美しい意匠性 2.危険物容器として最適 3.再利用にも多彩な用途 4.環境に優しい 5.場所を取らない）と利便性を簡潔にまとめました。また、鋼製ペールの製造工程も合わせて掲載しております。

本パンフレットは工業会HPの「鋼製ペールの特長」の中に掲載されております。



平成27年 暦年出荷実績

平成27年暦年の200L缶の出荷は、前年に比べ1.0%減、138千本減の13,579千本となりました。

用途別では、石油向け（前年比0.7%減、11千本減）、化学向け（同 1.1%減、117千本減）、塗料向け（同 5.4%減、

35千本減）、食料品向け（同 0.5%減、1千本減）は減少し、その他向け（同 17.1%増、26千本増）は増加しました。

ペール缶は前年比1.3%減の18,935千本、中小缶は同 1.0%減の479千本となりました。

■平成27年暦年缶種別・用途別出荷実績

缶種	平成27年暦年実績						
	本数 (千本)	前年比 (%)	用途別((本数)(千本))				
			石油	化学	塗料	食料品	その他
200L缶	13,579	99.0	1,603 (99.3)	10,999 (98.9)	624 (94.6)	176 (99.5)	177 (117.1)
ペール缶	18,935	98.7	10,111 (98.0)	7,669 (99.6)	655 (95.2)	0	500 (103.2)
中小型缶	479	99.0	0	455	6	0	19
亜鉛鉄板缶	356	87.9	0	326	1	5	24
ステンレス缶	30	79.9	0	29	0	0	1
合計	33,379	—	11,714	19,478	1,286	181	720
*前年比(%)	—	—	99.0	98.8	94.0	99.5	99.9
*構成比(%)	—	—	15.3	77.3	4.6	1.2	1.6

(注) 1. 用途別200L缶、ペール缶の下段()は前年比。 2. *前年比ならびに、*構成比は、トン数ベース。 3. 亜鉛鉄板缶、ステンレス缶は、200Lドラムおよび中小型缶を含む。
4. 総本数は、33,378,521本。表上数値は四捨五入による差異がある。

(単位:千本)

缶種	19暦年	20暦年	21暦年	22暦年	23暦年	24暦年	25暦年	26暦年	27暦年
200L缶	15,565	15,019	11,731	14,311	14,041	13,206	13,165	13,717	13,579
ペール缶	22,461	21,808	18,365	20,377	19,744	19,174	19,286	19,188	18,935
中小型缶	922	872	637	776	737	626	539	484	479
亜鉛鉄板缶	455	459	384	381	389	373	398	405	356
ステンレス缶	38	37	33	34	38	35	33	37	30
合計	39,442	38,196	31,150	35,879	34,949	33,413	33,421	33,831	33,379

会員

〈正会員〉

- 斎藤ドラム罐工業(株)
- JFEコンテナー(株)
- (株)ジャパンペール
- 新邦工業(株)
- ダイカン(株)
- (株)東京ドラム罐製作所
- 東邦シートフレーム(株)

- (株)長尾製缶所
- 日鉄住金ドラム(株)
- (株)前田製作所
- (株)山本工作所

〈準会員〉

- 森島金属工業(株)

〈賛助会員〉

- エノモト工業(株)
- (株)大和鉄工所
- 三喜プレス工業(株)
- (株)城内製作所
- 東邦工板(株)
- (株)水上工作所

ドラム缶工業会

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-2-10
(鉄鋼会館6階)
TEL 03-3669-5141 FAX 03-3669-2969
e-mail: drum.pail@jsda.gr.jp

URL: <http://www.jsda.gr.jp/>

ひびきNo.72(平成28年2月16日発行)

発行人 ドラム缶工業会
専務理事 事務局長 本田 信裕

本誌は環境に配慮した工程で印刷しています。